

安心・安全な少人数学級を求める意見書

首都圏を中心に新型コロナウイルスの感染者数が再び増大し、収束に数年かかる可能性もあると言われていています。また、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議は、「新しい生活様式」として、「身体的距離の確保」を呼びかけ、「人との間隔はできるだけ2メートル（最低1メートル）空けること」を基本としていますが、現在の「40人学級」では、2メートル空けることはおろか、1メートル空けることも困難です。

加えて、長期の休校によって、かつてない学習の遅れと格差が生まれています。この解決のため、詰め込み教育ではなく、一人一人の子どもに丁寧に寄り添い、心のケアにしっかりと取り組む手厚い教育が必要です。

クラスを半分にした分散登校中の少人数授業で、一人一人の顔がよく見えることや、授業がよくわかることを、先生や子どもも実感しました。

OECD諸国の中で、日本の40人学級は学級規模が最大級となっており、このことから、多くの自治体で30人学級や35人学級が実施されてきましたが、自治体レベルでこれをさらに改善することや、継続実施することは財政上非常に困難です。

よって、政府におかれましては、コロナ対策としての安全な学校、一人一人に行き届いた教育を実施するという観点から、少人数学級の実施に踏み切っていただきますよう、強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和2年9月24日

尾道市議会

関係行政庁あて